

公明党

佐子 眞良 眞雄
井男 雅次
増女 雅次
新宅 雄次
川上

新たに始まる、「特定健診」と
蛍光灯のリサイクル
介護問題、認知症サポーターについて伺う。

公明党 新宅 雅子

個人質問

健康問題

問 平成20年度から新しい健診制度が始まります。今までの基本健康診査という名称から特定健康診査という名称に変わります。「特定健診」の目的及び概要について伺います。

市長 平成18年6月、医療制度改革関連法が成立し、医療費の伸びを適正化することを目的として、国、県・市町村、医療保険者の連携のもと、糖尿病等の生活習慣病予防を徹底する方向が示されました。この改革により平成20年度から全医療保険者には40歳から74歳の被保険者、被扶養者を対象とした特定健診・保健指導の実施が義務づけられました。特定健診は、個別疾患の早期発見・早期治療のためだけでなく、内臓脂肪型肥満に着目した生活習慣病予防の保健指導を必要とする者を抽出するための健診となります。そして、健診受診者全

員に対し、新たに内臓脂肪症候群、いわゆるメタボリックシンドロームに着目して、特定健診で明らかにしたリスク要因の致に依りて対象者を選定・階層化した上で、対象者が身体メカニズムと生活習慣との関係を理解し、生活習慣の改善を自ら選択し、行動変容につなげることを支援する保健指導を行います。

◀リサイクルされる蛍光管



員に対し、新たに内臓脂肪症候群、いわゆるメタボリックシンドロームに着目して、特定健診で明らかにしたリスク要因の致に依りて対象者を選定・階層化した上で、対象者が身体メカニズムと生活習慣との関係を理解し、生活習慣の改善を自ら選択し、行動変容につなげることを支援する保健指導を行います。

環境問題
問 蛍光灯の処理について、本市では、蛍光管のリサイクル及び水銀の適正処

理に対するお考えは如何か、伺います。
市長 本市において、蛍光管は 本所第1・第3火曜日のごみステーション回収と、クリーンセンターへの直接搬入にて収集しており、また昨年度の処理状況は、北海道北見市にある民間処理施設へ、1千10キログラムを外部委託にて、リサイクルしております。現在、一般廃棄物処理基本計画の見直し作業が行っている中で、蛍光管を含む分別収集の細分化も検討しているところであります。今後は、水銀を含む有害ごみ等の適切な処理を市民の皆様にご理解いただけますようPRに努め、より適正な処理を推進してまいります。

介護問題

問 八街市の高齢化率が2006年末で16.02パーセントになりました。いまは本市は比較的若い市と認識しておりますが、今後、本市も本格的な超高齢社会の入り口に立つ事になり、2015年からは第一次ベビーブーム世代が順次高齢者になっていきます。そこ

で高齢者の機能回復、また寝たきりにならないために体操等の普及が必要と考えが如何か、伺います。
市長 平成18年の介護保険法の改正によりまして、高齢者が要支援・要介護状態になることを予防し、また状態の軽減、悪化の防止のために必要な支援を実施することを目的として、介護予防事業が位置づけられたところでございます。これに伴いまして、高齢者の把握に努め、高齢者の中で地域包括支援センターにおいて立案する介護予防支援計画によって運動機能向上が必要とされた方に対して、運動教室への参加を呼びかけているところであります。

認知症サポーターについて

問 厚生労働省が2005年4月からスタートされた「認知症を知り、地域をつくる10カ年」構想では、2009年までに認知症について字んじ住民が全国で100万人程度を達し、そのうちが認知症を理解し、支援する人、すなわち地域のサポーターになっている

とあります。本市でも目標を明確にし、認知症高齢者が安心して暮らせる街づくりが市民とともに努力する必要があるのではないかと考えます。サポーターの育成がどのようにしているのか伺います。
市長 高齢化社会の進展に伴い、認知症と認められる高齢者が増加してきており、症状の差はあるものの、85歳以上の高齢者4人に1人が認知症の症状があるとされています。本市でも地域包括支援センターの職員4名が千葉県主催の講習を修了し、この4月と8月に認知症サポーター養成講座を開催したところ、それぞれ12人、13人の参加がありました。

